

## 平成31年度入学式 学長式辞

愛媛大学長 大橋 裕一

桜も今や真っ盛り。朝はまだ冷え込みますが、満開の花びらに心華やぐ時が過ぎていきます。今週を過ぎれば、花びらが美しく風に舞う桜吹雪のステージも始まることでしょう。

この佳き日に、全国各地から、そして諸外国から、学部生1,913名、大学院生463名、合わせて2,376名の皆さんを愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。

「ご入学、おめでとうございます。」愛媛大学を代表し、皆さんを歓迎いたします。また、本日もご列席をいただいた、新入生のご家族ならびに関係の皆さま方に心よりお祝いを申し上げますとともに、ご多用にもかかわらずご臨席を賜りました、神野（この）愛媛県副知事をはじめとするご来賓の皆さま、校友会ならびに同窓会代表の皆さま、そして名誉教授の先生方に厚く御礼を申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学は、7学部と6研究科を擁し、1万人近い学生が学ぶ四国最大の総合大学であり、「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」、そして「世界とつながる大学」の実現を目標に前進を続けております。昭和24年に新制国立大学としてスタートしており、今年で創立からちょうど70年という節目の年を迎えようとしています。

本学は、現在の第3期中期目標期間において、「輝く個性で地域を動かし、世界とつながる大学」をビジョンに掲げ、教育、研究、社会連携、国際貢献などの各方面において順調な歩みを続けています。新入生の皆さんはどうか安心してこのキャンパスで勉学に励んでください。

さて今、平成の時代が幕を閉じ、新たに令和の時代が始まろうとしています。平成の始まりは米ソ対立による「東西冷戦」終結の時でしたが、令和の始まりは「新たな冷戦」の幕開けの時ということになりそうです。世界は今、分断と対立を生む「一国主義」により、先行きが不透明な時代を迎えています。

一方で、インターネットを通じてあらゆるモノが繋がる「IoT」の時代が訪れています。第四次産業革命とも呼ばれるこの時代では、ITとの接点なしに誰もが生きていくことはできないでしょう。愛媛大学としても、こうした社会変化に対応すべく、時代が要求する知識・技術、そして柔軟で逞しい適応力を身につけた人材を世に送り出していかなければならないと考えています。

さて、新入生の皆さんにとって、大学生活と高校生活との大きな違いは、自由な時間

が持てることでしょう。逆に言えば、自分自身で時間を適正に管理するいわゆる「タイム・マネジメント」が上手にできなければいけません。では、どのような時間の使い方があるのでしょうか？そこでお薦めしたいのが「読書」です。

平成26年に文化庁が行った「国語に関する世論調査」によりますと、日本人の読書量は顕著に低下しているようです。たとえば、「1か月にどのくらい本を読むか？」という質問に対しては、「読まない」が47.5%と最も高く、「1、2冊は読む」の34.5%と合わせればほぼ8割を占める状況です。読まない理由としては、「忙しくて時間が無い」が51.3%で第1位、以下に「視力低下」、「スマホに時間が取られる」、「テレビの方が魅力的」と続きますが、実に嘆かわしいことです。

言うまでもなく、「文字」は人類最大の発明の一つであり特権です。もともとは、古代メソポタミアにおいて、領土を統治するための情報共有システムとして生み出されたとされていますが、私たちは、この「文字」を介して知性を表現し、世代や時空を超えて知識を伝えてきたのです。

特に、印刷された「文字」、すなわち「書物」には素晴らしい力があります。中世においては、印刷技術の発達とともに人間同士のコミュニケーションが飛躍的に高まり、国家を形成するほどの活力が生まれたと考えられています。このように、「文字」というツールなしに人類の進歩はあり得なかったのですが、今、皮肉なことに、情報技術の急速な進歩が人間の思考を退化させる弊害を生んでいるのです。

読書という作業では脳の様々な器官が働きます。機能的磁気共鳴画像法（functional MRI）を用いた研究によれば、文字を読む時には、視覚はもちろんのこと、記憶を司る海馬、感情を司る扁桃体や前頭葉など、少なくとも脳内の9つの部位が同時に活動しています。

他方、「テレビ」の場合には、後頭葉（見る）と側頭葉（聞く）は活発に働いていますが、前頭葉（考える）の活動は『目を閉じて何もしていない時』よりも抑制されているのです。これには、テレビからの情報伝播が解説的かつ受動的であることが深く関係しているようです。

「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話を交わすようなものである。」とは、フランスの哲学者であり、数学者でもあったデカルトの名言です。また、吉田松陰は「読書というものは、最もよく人の心を変えるものである。書は何と恐るべきものだろうか。」と読書の持つ無限のポテンシャルを強調しています。

読書においては、書物との1対1の関係の中で、読んだ人にしか受容できない「知の伝播」、「知の対話」が行われています。書物の重さと厚みを感じつつ、能動的に本を読むこと、考えながら本を読むことの重要性をわれわれは再認識する必要があるのではないのでしょうか。読書により、情報収集力、状況判断力、俯瞰的洞察力など、これからの

激動の社会を生き抜いていくための基本的な能力が養われていくのです。

さて、人気映画「スター・ウォーズ」の2015年の作品に「フォースの覚醒」がありました。これは、主人公のレイが闘いの中でジェダイとして目覚め、成長していくストーリーですが、今、皆さんにも「フォースの覚醒」ならぬ「リーディングフォース～読書力の覚醒」が必要ではないでしょうか。まずは1冊から、そして1冊読んだ後は2冊目へ、その地道な努力が皆さんの「考える力」を高めてくれることでしょう。

「読書」はわれわれが決して失ってはならないツールです。「時間があれば読書しよう！」というアドバイスを改めてお贈りし、本日の結びといたします。